

## 報告事項2

# 令和5年度事業計画書及び収支予算書について

## 令和5年度事業計画書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

### 基本方針

国内屈指の地位を誇る本県の畜産は、県農業産出額の約6割を占めるとともに、裾野の広い関連産業を抱え、地域経済の活性化に大きく寄与している。

一方、家畜飼養者の高齢化等により、畜産経営戸数の減少等が続いており、一層の生産基盤の強化が喫緊の課題となっている。

このため、本県においては、国の総合的なTPP等関連政策大綱に基づく畜産クラスター事業をはじめとする各種事業を積極的に活用した生産基盤強化の取組が進められ、TPP11発効前より肉用牛及び乳用牛の飼養頭数は増加し、小規模から中規模へ、中規模から大規模へと生産構造の転換が進んでいる。

当協会では、平成28年度から令和4年度までの間、畜産クラスター機械導入事業の窓口団体として、34の畜産クラスター協議会を対象に、畜産農家の機械導入における費用負担を軽減しつつ、経営の近代化及び収益性向上を図ってきた。また、令和2年度から始まった優良雌牛の増頭による肉用牛生産基盤の拡大を図るための生産基盤拡大加速化事業や既存の肉用牛経営安定対策補完事業の実施により、2年度及び3年度の2か年で合計1,427頭（実363戸）の肉用牛の増頭が図られた。

このように、畜産経営の体質強化を推進している中で、令和4年以降、ロシアによるウクライナ侵攻、行き過ぎた円安などにより、原油・石油製品価格や肥料、穀物の相場が騰勢を強め、輸入依存の危うさが浮き彫りとなっている。特に、酪農家には、飼料高騰や子牛価格の低迷、生乳需給の緩和基調など、複数の危機が同時に押し寄せている。

これに対し、農林水産省は、2022年度第2次補正予算総額の約1割に当たる773億円を「畜産・酪農の生産基盤の強化」に充てた。その中心は畜産クラスター事業や和牛増頭に係る事業であり、いずれも当協会が担うものである。

こうしたことから、令和5年度については、当協会の各種事業において、意欲ある生産者の参加を取りこぼすことのないよう、関係機関・団体との連携のもと、次の重点事項を柱に掲げ、当協会の総力を挙げて各種事業を推進していくものとする。

### 重点事項

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 5 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び適正利用の推進
- 6 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- 7 第16回全日本ホルスタイン共進会出品対策の推進

## I 実施事業

### 1 継続事業1

畜産振興を目的として、経営の改善指導・生産技術の向上指導、経営体の育成啓発、家畜改良の推進指導、家畜衛生の向上指導及び畜産物の安全確保指導、調査並びに情報収集及び提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施する。

#### <経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

##### (1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,032千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行う。

ア 畜産経営体支援指導研究会 1回

イ 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施 延べ170件

① 経営診断に基づく改善指導 10件

② 経営管理技術指導 46件

③ 生産技術指導 74件

④ フォローアップ指導 40件

(イ) 地域セミナーの開催 3回

ウ 畜産経営情報の提供（ホームページ）

##### (2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,730千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金等岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行う。

協議会開催 3回、融資機関指導 21か所、借入者指導 32戸

##### (3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：33,122千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施する。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

・ 経営診断指導（コンサルティング） 170戸、地域セミナー 3回

・ 乳質改善指導 320戸

イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の供給に資する事業

- ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 10地域
- ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発（ホームページ更新等）

ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業

- ・ 競馬場における畜産普及啓発（畜産加工品の配布等） 3回
- ・ 主要馬産地イベント支援 2回
- ・ 家畜に係わる伝統行事支援（支援窓口業務）

#### （4）畜産経営技術指導事業（生産技術情報提供事業）

[中畜請負：445千円]

家畜の生産技術指導に資する情報を整備するため、家畜の生産・出荷成績等のデータ収集及び分析に基づく助言指導を行う。

酪農経営 3戸、肉用牛経営 2戸

#### （5）ミルクシステム診断事業

[独自：6,046千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施する。

ミルクシステム 320基、バルククーラー 310基

#### <担い手の強化・育成等に係る事業>

#### （6）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,404千円、預かり補助金：64,600千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援する。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進  
繁殖雌牛増頭への奨励金 7農協、181頭
- ② 遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保  
遺伝的多様性に資する繁殖雌牛導入等への奨励金 3農協、14頭
- ③ 優良繁殖雌牛導入支援  
優良雌牛導入等への奨励金 6農協、103頭
- ④ 肉用牛ヘルパー推進  
肉用牛ヘルパー利用の推進等 5組合
- ⑤ 肉用牛振興推進指導  
①から④の円滑実施のための指導等

イ 地域の特色ある肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種等の振興
  - ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、10集団
  - ・ 計画出荷対策 1農協、179頭
- ② 山振地域における肉用牛振興  
優良子牛適正出荷推進 1農協、2,620頭
- ③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導
  - ①及び②の円滑実施のための指導等

(7) 肉用牛経営安定対策補完事業（強化哺乳技術を活用した早期出荷支援事業）

[機構補助：613千円、預かり補助金：1,200千円]

肉用子牛の発育の向上及び早期出荷を図るため、強化哺乳技術を活用した子牛生産の取組を支援する。

ア 早期出荷支援対策

対象頭数及び奨励金単価 200頭、6千円／頭

イ 推進会議

1回

(8) 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）

[全肉振委託：5,121千円]

優良雌牛の増頭による肉用牛生産基盤の拡大を図るため、本県における事業窓口団体としての業務を行う。

- ・ 取組主体から提出される各種書類の確認、進達等 17取組主体
- ・ 県内説明会 1回

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(9) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：3,314千円]

畜産の収益性向上等を推進するため、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行う。

- ・ 機械導入事業実施に係る書類の取りまとめ・進達等 34協議会
- ・ 県内説明会 1回
- ・ 県内システム研修会 1回

(10) 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置等導入事業）

[中畜委託：201千円]

肉用牛経営及び酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化に資

する機械装置の導入（リース）等を支援する。

- ・ 県内説明会 1回
- ・ 利用確認業務 2応援会議

(11) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：690千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入（リース）及び導入される機械装置と一体的な施設の整備を支援する。

- ・ 県内説明会 1回
- ・ 利用確認業務 1応援会議

(12) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果）

[中畜請負：150千円]

畜産クラスター事業の効果を検証するため、事業取組経営体を対象に経営内容に係る調査を行う。

対象 1戸

(13) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜請負：960千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行う。

対象 12戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(14) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進）

[家畜改良事業団委託：282千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合との間で行われる事務手続きの円滑な実施のため、窓口業務を行う。

対象 4牛群検定組合

(15) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：2,346千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行う。

ア 優良種雄馬繁殖奨励

種雄馬管理者への奨励金 4頭

イ 子馬生産奨励

血統登録馬への奨励金 29頭

＜家畜衛生の普及推進等に係る事業＞

(16) 家畜防疫互助基金支援事業

[中畜委託：3,264千円]

口蹄疫、豚熱（CSF）等発生時の経済的損失を生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行う。

推進会議 1回、対象戸数 4,501戸（牛4,415戸、豚86戸）

(17) 家畜防疫・衛生指導対策事業

[中畜補助：2,542千円]

地域における自衛防疫活動を推進するとともに、農場HACCP認証の取得に向けた取組を支援する。

ア 地域自衛防疫推進

防疫演習 3回

イ 地域疾病対策

慢性感染症対策 牛伝染性リンパ腫（EBL） 1戸

ウ 地域農場HACCP認証支援

構築指導 3戸

(18) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜補助：740千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行う。

委員会 1回、講習会 2回、実態調査 100戸

(19) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：327千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進する。

対象 遠野市の軽種馬、乗用馬及び農用馬 110頭

(20) 馬防疫強化地域推進対策事業

[中畜補助：1,435千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策を推進するため、検討会を開催するととも

に、農用馬等へのワクチン接種を推進する。

- ・ ワクチン接種 馬インフルエンザ 80頭、馬鼻肺炎 40頭
- ・ 検討会 1回

#### (21) 牛疾病検査円滑化推進対策事業

[農水省補助：1,506千円、預かり補助金：10,600千円]

死亡牛の円滑かつ適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行う。

96か月齢以上の死亡牛 1,200頭

### <技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

#### (22) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,063千円、独自：1,063千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、全県を範囲とする岩手県畜産共進会を畜種別に開催する。

部 門	時 期	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	8月下旬	100頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	9月上旬	100頭	同上
日 本 短 角 種	9月上旬	50頭	同上
馬	9月上旬	30頭	馬っこパーク・いわて
肉牛(黒毛和種)	11月中旬	50頭	(株)いわちく

### <畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

#### (23) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,435千円]

畜産経営に有用な情報を畜産農家及び畜産関係機関・団体に提供するため、会報「岩手の畜産」を発行する。

年6回(奇数月) 1回当たり発行部数 1,300部

#### (24) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[リース協会委託：1,275千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行う。

調査物件数 100件、リース事業周知 14回

(25) 畜産技術指導促進事業

[独自：350千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行う。

(26) 図書支援事業

[独自：400千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行う。

2 継続事業2

肉用牛肥育経営安定対策事業

肉用牛肥育経営安定交付金制度事務管理運営事業

[預かり補助金：804,006千円、生産者等：268,000千円、  
機構委託：12,542千円、独自：14,476千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付する。

(1) 肥育牛補填金（交付金）交付対策（預かり補助金・生産者等）

ア 基金造成

生産者等 268,002千円 (1/4)

イ 預かり補助金

機構 804,006千円 (3/4)

ウ 登録生産者及び負担金納付見込頭数

登録生産者数 271戸、負担金納付見込頭数 18,700頭

内訳

品種	頭数
肉専用種	9,700頭
交雑種	7,200頭
乳用種	1,800頭

(2) 事業推進対策（機構委託）

ア 会議開催、事務委託費の交付

イ 事務委託先（9団体）

全国農業協同組合連合会岩手県本部、一般社団法人岩手県配合飼料価格安定基金協会、新岩手農業協同組合、岩手中央農業協同組合、花巻農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、岩手江刺農業協同組合、いわて平泉農業協同組合、岩手花平農業協同組合



### (3) 事務推進対策（独自）

#### ア 協会事務費

人件費、旅費、会議費、印刷製本費、消耗品費、消耗什器備品費、通信運搬費、租税公課等

#### イ 委託先事務費

## 3 継続事業3

### 家畜自衛防疫事業

[農水省補助：23,881千円、独自：180,910千円]

#### (1) 家畜生産農場衛生対策事業（農水省補助）

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進する。

##### ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金交付 45頭

##### イ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 38,960頭

##### ウ 牛伝染性リンパ腫（EBL）対策

検査 1,400頭

##### エ 牛ウイルス性下痢（BVD）対策

検査 900頭、持続感染（PI）牛のとう汰 10頭、ワクチン接種 800頭

#### (2) 家畜自衛防疫推進・支援事業（独自）

##### ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進する。

ワクチンの種類	頭数	ワクチンの種類	頭数
牛5種混合（生）	17,460頭	牛ヘモフィルス	17,030頭
牛5種混合（不活化）	4,400頭	豚丹毒（生）	33,120頭
牛6種混合（生・不活化）	6,780頭	豚丹毒（不活化）	36,800頭
牛6種混合（生）	3,420頭		

##### イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行う。

主要対象疾病：ヨーネ病、牛ウイルス性下痢（BVD）、牛サルモネラ症

## II その他事業

### 1 その他事業1

#### 家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：81,251千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、家畜人工授精用凍結精液及び受精卵等の供給を円滑かつ安定的に行う。

#### (1) 凍結精液及び液体窒素の供給

ア 凍結精液99,000本（肉用牛69,200本、乳用牛29,800本）

イ 液体窒素54,000kg

#### (2) 経営効果の高い精液の利用推進

ア 家畜改良事例研修等の実施による家畜人工授精担当者の知識・技術研鑽と農家への助言・指導力の向上

イ 性選別精液等の利用による効率的な後継牛確保の推進

#### (3) 供給精液の受胎状況調査

供給精液の受胎状況調査による授精技術等の検証

#### (4) 家畜改良に関する情報の提供

利用可能種雄牛、種雄牛遺伝能力、和牛子牛市場成績、枝肉成績、家畜改良に関する新技術の紹介等

### 2 その他事業2

#### 家畜登録事業

[独自：42,058千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進する。

#### (1) 家畜登録関係

ア 乳用牛

9,199件（血統登録5,070件、牛群審査1,234件、牛群検定成績証明745件、移動・その他2,150件）

イ 豚

1,587件（種豚登録540件、子豚登記630件、審査410件、農場認定6件、移動・その他1件）

(2) 事業推進

- ア 家畜登録事業情報の提供
- イ 登録委員等の委嘱・適正配置
- ウ 登録担当者会議の開催
- エ 登録関係研修会等への参加・派遣

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：2,968千円]

生乳検査業務の廃止に伴い、残務整理等を行う。

委託費支出等

4 その他事業4

(1) 研修事業

[独自：430千円]

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と業務遂行能力の向上を図る。

- ア 職員技術研修事業
- イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

(2) 畜産理解促進事業

[中畜委託：2,930千円、独自：350千円]

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進するとともに、地方競馬の活性化を支援する。

- ア 地域畜産支援指導等体制強化事業（畜産関係団体調整機能強化事業）（中畜委託）  
競馬場において畜産フェアを開催し、県産畜産物加工品等の配布を通じて、岩手競馬の支援と畜産への理解促進を行う。

また、生産者等からの各種相談に的確に対応し得る窓口機能を強化する。

イ 岩手競馬支援特別対策事業（独自）

冠レースへの会長賞授与、競馬ファン感謝サービスの実施、畜産物等の消費宣伝等を行う。